

【^{つむ}思いを紡ぐ～高田屋太鼓～】

令和5年5月26日



3年生の丸林美穂さんは、「『高田屋太鼓』の活動を通して伝統文化を継承したい」という思いで太鼓に打ち込んでいます。去る5月14日に開催された「国際ソロパチミスト淡路第16回ユース・フォーラム」において、「日本の伝統文化 学び・つなぐ」というテーマで意見を述べ、「国際ソロパチミスト淡路賞」を受賞

しました。「**伝統文化は次の世代へと受け継いでいかなければならない。人と人の心を紡ぐ大切なものだから。**」そんな思いを熱く語りました。

小2の時に出会い、魅了された高田屋太鼓にはどのような魅力があるのか。丸林さんにとって、**太鼓のバチさばきは自分と向き合い見つめ直す最高の時間**であるそうです。また、演奏中は、メンバーや観客と達成感や一体感を分かち合い、一緒に何かを築き上げていく感覚があり、人々の楽しいという思いが交わる瞬間が大好きだそうです。



先達が継承してきた文化に**新たに自分の思いや技術を重ね、進化・洗練された文化にしていく**こと、それが「紡ぐ」ということだと丸林さんは感じています。今後も活動は継続していくそうですが、高田屋太鼓どのように紡いでいくか、自分自身のはっきりとした答えは出ていません。しかし、**演奏の楽しさや観客から励ましの言葉**をもらった時の嬉しさを大切にしながら、**自分なりの進化を遂げたい**と丸林さんは思っています。

太鼓は音楽的な面だけでなく、ダイナミックな身体的表現や文化的な繋がりを通じて多くの人々に愛されています。太鼓を演奏するということは、文化や伝統を守り継ぐ一躍を担うということだと思います。

これからの丸林さんの活躍に期待します！